

いちばんぼし

第3学年
H30.5.14
NO.2

はいさい沖縄 修学旅行

2泊3日をダイジェストで…
出発



5:50集合。まだ眠そうな人もいましたが、みんなやる気満々。実行委員や校長先生からのあいさつのあと、たくさんの先生たちに見送られて小田北を出発。

飛行機にはじめて乗る人も多かったようで、機体が離陸に向けて猛スピードで走り出すとみんなのテンションもMAXに。離陸した瞬間には歓声が沸き起こりました。小田北生からすると飛行機もジェットコースターも同じ？

平和記念公園・平和の礎



まずは平和祈念資料館へ。班活動で展示物を見て回る。かつてこの沖縄という地で何があったのか、みんなで学んできました。平和の礎(いしじ)の前では、黙祷をささげ、みんなで作った千羽鶴を奉納しました。海風に吹かれながら、約24万人の名前が刻まれた石碑は静かにたたずんでいます。
「命(ぬち)どう宝」命こそ宝物。



壕(ガマ)



自然にできた洞穴。かつて、たくさんの沖縄の人が戦火を逃れるために逃げ込みました。そして、たくさんの人が凄惨な最期を遂げた場所もこの壕(ガマ)

でした。狭い入り口。劣悪な足場。ガイドさんの指示で懐中電灯を消してみる。真っ暗。静寂。漆黒の世界。壕に逃げ込んだのは、年寄りや小さな子ども、赤ちゃんを連れた母達が多かったといひます。どんな気持ちで身を潜めていたのでしょうか…。壕の奥ではかなく光るホタルの姿を見ることができたクラスもありました。

入村式・民泊



読谷村に到着。町役場にはホストファミリーの出迎え。さっそく三線(さんしん・沖縄三味線)を弾くオジヤ音楽に乗り踊っているオバア(オジ・オバアは沖縄では親しみを込めた年寄りの呼び名)。一気に沖縄の雰囲気。ドキドキしながら民泊先の家族



を探すみんな。あたたかく迎えてもらっているのに、何か不安げな小田北諸君。初めて出会う人とどのように交流しコミュニケーションを取るのか。相手を理解し、自分を理解してもらうためにはどうすればいいのか。内弁慶が多い小田北のみんなには絶好の機会だったと思います。さあ、民泊家庭にレッツゴー!

民泊中



それぞれの家庭に分かれて、いろいろなことをさせてもらっています。なにを体験させてもらったか、どこに連れていってもらったか。詳しい話は、みんなにまとめてもらってまた紹介したいと思います。先生たちもみんなの姿を探しに近辺をフラフラ。お邪魔に

ならないように遠巻きにそっと活動を見守るの図。いずれ小田北を巣立っていくみんな。親や先生たちから少し離れて、新しい世界に向けて、はばたきの練習。

離村式



きちんと整列し、代表がしっかりと民泊先にご挨拶。挨拶後に三線(さんしん)や指笛の聴こえてくると、それまで壇上に座っていた民泊家庭のみなさんが小田北生とのいる広場になだれ込んでくる。「カチャーシー」は音楽に合わせて手を動かしてステップを踏む沖縄の伝統的な踊りです。民泊家族と小田北生が入り乱れて、感謝とお別れの踊り。ホストファミリーと抱擁する姿も。

“いちゃりば家族”

見送りに来て下さった民泊家族が持っておられた団幕に書かれていた言葉です。「いちゃりば家族」は、「一度出会ったならば、それは家族も同然だ」という意味です。たった1日の間でしたが、家族同様に迎えてもらったみんなの心の中には、きっと目には見えない何かはずっと残り続けているはず。人は社会の中で支えあって生きています。今までのみんなは支えられるのみ立場でしたが、これからは社会を形成する一員としてどのように振舞っていかねばならないかを考えさせられる言葉です。

